

(様式4)

令和3年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立 泊小学校

校長名 栗原 歳盛 印

1. 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の向上をめざす。
 - ・校内授業研究会を充実し、研究の積み上げをもとにして学校全体での授業スタイルを整えながら授業力の向上を図る。
 - ・単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実、活用場面の工夫を図る。
 - ・本時目標を明確にし、ペア学習・グループ学習や情報機器の効果的な活用を工夫し、授業改善を図る。
 - ・少人数を生かした指導、M I M指導、朝の活動、放課後の個別学習等に取り組み、基礎基本の定着を図る。
- 本格実施となる外国語科・外国語活動の授業づくりに取り組む。
- 「家庭学習の手引き」や「家庭学習がんばりカード」を活用し、家庭学習の習慣化、自主学習につながる家庭学習をめざす。
- 図書館利用の推進を図り、読書の習慣化を進めるとともに、授業の単元に関する図書の活用の充実を図る。

(2) 豊かな心の育成

- 仲間づくりを中核にした人権教育を推進する。身近な課題に気づかせ、解決に向けた話し合い活動に取り組む。
- 児童理解を進め、思いやりがある豊かな心を育成し、落ち着いた学校生活をめざす。そのための特別支援教育の研修を行う。
- 全校集会（あったか集会、しおかぜ集会等）の取り組みや縦割り班活動をより充実させる。
- いじめの早期発見、早期対応をめざし、定期的にいじめに係る事例検討会を開く。
- より良い言葉遣いのあり方について重点的に指導を進める。

(3) 健やかな体の育成

- 体力作りを意識した体育学習を行う。児童が自分の目標を持ち体力づくり意識を持って体育学習をするように取り組む。
- 体力作り意欲を高めるためマラソン大会、縄跳び大会などに取り組む。
- メディアとのよりよい関わりを目指し、家庭と協力して、学習、研修を進める。
- 食育指導・健康指導を行い、健康な体づくりに関心を持たせるとともに、児童の基本的な生活習慣に関する意識の向上を図る。
- 学校保健委員会と連携し、保護者と課題を共有し、改善対策に取り組む。

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

- 地域教材・人材等を生かした総合的な学習の時間の推進を図る。
- 特色ある教育活動とふるさと学習の充実を図りながら推進するとともに、各活動での双方向のメッセージ交流を工夫し、家庭・地域と共通の目標に向かって取り組みを進める。
- 学校だより、学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に情報発信する。
- ホームページを活用し、旬な情報を発信する。

(様式4)

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成 ○1 単位時間で本時のねらいを達成できる授業づくりの推進 ㊦ ○国語の校内授業研究会を通して、共通実践していくことを確認し、授業力を向上させる。 A ○本時目標に応じて、効果的なペア学習・グループ学習を取り入れる。 A ○情報機器を効果的に活用する。 ㊦ ○単元計画、学習過程を創意工夫し、言語活動の充実を図る。 B ○少人数指導を生かした個別指導、MI・M指導、朝の活動、放課後学習等に取り組む ㊦ ○図書館利用を推進し、読書の習慣化を進め、授業への図書を計画的に取り組む。 B ○家庭学習の手引きや「家庭学習がんばりカード」を活用する。 B	B	・校内研究では国語科の授業研究を進めた。本年は「話すこと、聞くこと」領域の研究を深めることができた。自己課題を持つことやねらいを明確にしたペア・グループ学習を意識し主体的に取り組む学習像を共通して目指すことができた。思考ツールや資料活用の工夫を意識して取り組んだ。毎時間のねらいを明確にし、振り返ることで学習内容が定着してきている。「授業研究会を授業力向上にいかした」ことへの教職員評価は半数が A の自己評価をしている。 ・児童アンケートでは、「話し合うと勉強がよくわかるか」について 89%が、「学校の勉強はだいたいわかるか」については 92%の児童が肯定的に答えており、高い数値であることから「話すこと・聞くこと」を意識した展開を学習全般に取り組んでいると言える。国語が好きだと肯定的にとらえている児童は 77% (12 月) で 5 月から 13 ポイントも上がっていることも領域の研究の成果である。 ・身に付けた力の活用を目指し、日々の学校生活とつなげながら取り組んでいる。スピーチやテーマを設定したトーク、全校朝会の話の感想を書くなど計画的に取り組んだ。 ・学習での ICT 活用に努めた。効果的だった活用実践を記録し、参考にし合うことができた。 ・「家庭学習がんばりカード」の取り組みでは、事前に学習計画を立てて進めるよう取り組んだ。内容をよく考える児童が増えた。しかし一方で充実を図りたい児童もいる。全体として家庭学習の充実が図っていけるよう取り組みを続けたい。
(2) 豊かな心の育成 ・仲間づくりを中核にした人権教育を推進する。仲間づくりに関する研修をする。 B ・児童の身近にある課題に気づかせ、解決に向けた話し合いに取り組む。 ㊦ ・児童理解を進め、思いやりがある豊かな心を育成し、落ち着いた学校生活を目指す。そのための特別支援教育の研修を行う。 B ・全校集会（あったか集会、しおかぜ集会等）の取り組みや縦割り班活動を充実させる。 B	B	・自分たちの学級を振り返り、今取り組むべき課題を話し合っ て決め、振り返りながら次の課題に向かっていく取り組みを計画的に行った。教室に課題を掲示し意識を高めながら取り組んだ。 ・あったか言葉を意識するよう、全校児童で掲示を作成したり、たくさんの場面で言葉遣いを振り返ったりして取り組みを継続した。児童アンケートの「あったか言葉を使っている」の問いで94%の児童が肯定的に自分の姿をとらえている。意識としてかなり高まっていることは確かである。「あったか言葉」を合言葉として効果的に活用し、指導を継続していきたい。 ・児童理解や児童のかかわり方について共有する研修会を設定し児童対応の共通理解を進めることができた。 ・いじめの早期発見早期対応を目指し、組織的に取り組んでいる。定例のいじめ対策委員会を開き、全体で共通理解することで一貫した指導が出来ている。継続して注意深く児童の関係を把握していきたい。

(様式4)

・いじめの早期発見、早期対応をめざし、定期的にいじめに係る事例検討会を開く。② ・生徒指導計画的に取り組み、より良い言葉遣いのあり方について等指導を進める。B		・「学校が楽しい」について79%の児童が肯定的に答えている。昨年は3割程度だったのでかなり増加した。学園の森の活用の奨励、全校活動の工夫等に取り組むことができた。 ・自他ともに大切にしたい、命・こころとからだを守っていかうとする態度を、今後一層取り組んでいく。交通安全、生活安全の意識高揚を一層図っていく。
(3) 健やかな体の育成 ・体力の向上を意識した体育の授業を行う。B ・体力作りへの意欲を高めるために、マラソン大会、縄跳び大会などに取り組む。B ・メディアとのよりよい関わりを目指し、家庭と協力して、学習、研修をするB ・健康な体づくりに関心を持たせ、児童の基本的な生活習慣に関する意識を向上させる食育指導・健康指導を行う。A ・学校保健委員会等を通して保護者と課題を共有し、改善対策に取り組む。生活習慣についての指導を連携して行うよう情報発信する。B	B	・業間運動をしない中での体力向上の取り組みを工夫している。体育学習で、体づくり運動としてサーキット運動を帯で取り入れる取り組みをした。徐々に体力が向上していると感じている。 ・普段の生活場面で、運動に取り組めるよう体育館周辺にジャンプやろくぼく渡りのコーナーを設定し取り組んだ。 ・マラソン大会に向けて目標設定をして意識を高めたり、体育での長距離走に取り組んだりして進めた。体力の向上につながっている。 ・メディアとの関わり等について保護者啓発の研修会を設定することができた。保護者から参考になったと感想があった。 ・栄養教諭と養護助教諭と連携して食育や健康指導を進めることができた。短時間指導ではあるがのべ約20回（食育）、約30回（健康指導）実践した。 ・本年度の健康課題を明確にする中で基本的な生活習慣の定着を図るよう取り組みを進めた。学校保健委員会資料、保健だより等で課題をもとにメディアチャレンジ等の取り組みを進めた。親子での活動を工夫することへの意識が少しずつ高まっている。
(4) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり ・地域とより深くつながるために、総合的な学習の時間の探究的活動を計画的に進め、充実に努める。B ・地域の施設や外部人材を活用し、特色のある教育活動とふるさと教育を推進する。A ・交流活動・学習ボランティアが参加された際は、必ず紹介しメッセージを伝え合うなどして、地域の方との関わりを広げる。A ・学校だより、学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に情報発信する。B ・ホームページを活用し、旬な情報を発信する。A	A	・ホームページの更新、学年・学級だよりの発行により子どもたちの頑張っている様子を地域、家庭に知らせることができた。 ・地域の方との学習、地域に出かけていろいろ教えてもらう活動等計画的にたくさん取り入れることができた。泊ならではの体験活動も地域の方にお世話になり、取り組むことができた。また、昨年できなかったなかよしグラウンド・ゴルフ大会がたくさんの協力のもと実施できた。「地域施設や外部人材を活用し特色ある教育活動とふるさと教育を推進した」についての教職員アンケートでの評価は全員が肯定的評価であることから学習の工夫が分かる。 ・地域ならではの体験活動に取り組む際に、単なる体験に終わらず、活動に関わってくださった地域の人の思いや願いを受けとめたり、自分の思いや考えを伝えたりして交流をきちんと取り組めるよう計画していきたい。キャリア教育とつなげていくことが大切だと考える。 ・総合的な学習であれば、「探究的活動」として一人一人の自己課題を明確にして取り組むと、地域との人・もの・こ

(様式4)

		ととの出会いが、子どもたちの育成により深くかかわるととらえて取り組みたい。
--	--	---------------------------------------

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	「わかる授業の創造と確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな身体の育成」「ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり」の4つの柱を掲げ、それぞれの目指す姿や重点施策を話し合い取り組みを進めた。授業力向上を目指し、授業研究会を通して共通実践することを明確にして進めた。各学級での実践が進むと同時に他教科への広がりも見られ授業力向上が進んでいる。人権教育を中核に据え、生活課題に気づき協力して改善に取り組むよう進めた。話し合い活動をし、掲示しながら取り組むことで課題意識を持つことができた。継続して取り組むことで仲間づくりが進んでいくと考える。情報発信にも心がけた。地域の建物や産業、人材を生かしふるさとと関わりながら学習を進めることができていると感じている。 課題としては、児童の特性・実態に応じた学習や生活指導の充実や、学校内や地域でのあいさつ、言葉遣い、児童の生活習慣等に課題がある。これらの課題に向けて、家庭、地域とも連携しながら取り組みを進めていきたいと考える。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成	・相手を意識して、わかりやすく話す力の育成。表現力の育成。図や資料を活用して説明する力の育成。 ・友達と関わり合いながら主体的に学習に取り組む力の育成。 ・個に応じた細やかな配慮のある指導 ・情報機器を活用した、授業づくりの推進。 ・家庭学習の定着、充実に向けての家庭との連携
(2) ゆたかな心の育成	・身近な問題に気づき、解決に向けて話し合いながら協力し合う仲間作りの推進。 ・いじめの早期発見、早期対応 ・自他ともに大切にする態度、命、心と身体を大切にする実践力の育成
(3) 健やかな体の育成	・校内体力増進計画の推進（取り組みの継続、ワンミニッツエクセサイズ等の導入） ・メディアに係る課題、基本的生活習慣の課題に向けて、指導内容や啓発内容を明確にし、アンケート等評価とつなげて学校と家庭との連携を継続的に図る。
(4) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり	・地域に目を向けた探求活動を取り入れた総合的な学習の時間の推進。 ・情報発信の継続 ・地域の方との交流を推進する。